

JLEM News Letter Vol.21



第26回日本語教育方法研究会開催

発表23件

第27回は東北大学にて

2006年3月18日(土)、第26回日本語教育方法研究会が国立国語研究所で開催されました。

小河原義朗先生はじめ、スタッフの皆さま、大変お世話になりました。

前日3月17日に運営委員会が、研究会当日には臨時総会が開かれ、さまざまな報告・審議がありました。内容については、このレターの記事をご覧ください。

なお、今回の研究会は、2006年9月23日(土)東北大学において開かれます。才田いずみ新会長のもと、初めて開催される研究会となります。みなさまふるってご参加ください。

開催を終えて

小河原 義朗
(元 国立国語研究所)

2006年3月18日(土)国立国語研究所で第26回研究会が開催されました。国立国語研究所での開催は2回目になりますが、前回の東京都北区ではなく、法人化後、東京都立川市に移転して1年目のピカピカの新庁舎での開催となりました。そのため、まだ知られていない、都心から遠い、周囲にはまだ何もないといった不安要素がありましたが、当日

は晴天に恵まれ、日本各地から参加者が集まりました。

発表は、教材・テスト・支援システム等の開発、誤用分析、習得、発音・口頭発表・作文等の授業実践報告、その他多岐にわたるテーマで、23件の発表が行われました。参加者は、活発に意見を交換し、議論を深めていました。

開催担当である自分も移転後1年ということで、会場や機器類に不慣れなため、当日は、みなさまにご迷惑をおかけしたと思います。また、大学などとはちがい、サポートの人員が少ないため、不安を抱えてのお迎えとなりました。しかし、そこはさすがJLEMで、皆さまのご協力のおかげで無事終えることができました。いろいろご協力をいただいた皆さま、本当にありがとうございました。(現 北海道大学)

次回開催にあたって

才田いずみ
(東北大学)

今回は東北大学が開催校となり仙台市内で行います。特に何かが変わるということはありませんが、文部科学省が公募した『魅力ある大学院教育』イニシアティブの事業

として東北大学大学院文学研究科言語科学専攻が展開している「言語研究者・言語教育者養成プログラム」との共同開催という形で開催致しますので、宜しく願い申し上げます。会場は仙台市国際交流センターというところです。繁華街からはやや離れていますが、仙台駅から歩いて30分程度のところにあり、天気がよければ散歩にちょうどよい距離です。仙台名物のけやき並木(青葉通り)を眺めつつ、あの有名な広瀬川を渡って会場へいらしていただけます。もちろん、バスやタクシーもごさいますので、ご安心ください。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

重要なお知らせ:

申し込みが電子メールでできるようになりました。別紙案内を参照の上、ふるってお申し込みください。

運営委員会報告

第26回大会前日、3月17日午後7時より都内で運営委員会を行いました。審議事項は、以下の通りです。

(1) 次期会長および新事務局

才田いずみ氏(東北大学)が新会長就任をご承諾くださいました。任期は、2006年4月1日~2008年3月31日です。また、名嶋義直氏(東北大学)が事務局を担当してくださることになりました。

(2) 運営委員会委員について

新年度につき若干異動があり、以下のメンバーが運営委員を務めてくださることになりました。任期は、2007年3月31日までです。

会計：

馬場眞知子（東京農工大学）

加藤由香里（東京農工大学）

編集：

小野正樹（筑波大学）

小林由子（北海道大学）

会員情報：

衣川隆生（名古屋大学）

企画・広報：

小河原義朗（北海道大学）

越前谷明子（東京農工大学）

仁科喜久子（東京工業大学）

小島 聡（東京工業大学）

鹿嶋 彰（弘前大学）

河野俊之（横浜国立大学）

高橋亜紀子（宮城教育大学）

根津 誠（国際交流基金）

浜田麻里（京都教育大学）

松崎 寛（広島大学）

(3) 会計報告

平成17年度の会計報告、および、18年度の予算を審議いたしました。詳細は、会計からの報告をご覧ください。

(4) 次期開催校について

第27回大会を2006年9月23日（土・祝日）に東北大学で行うことを決めました。大会実行委員は名嶋義直氏（東北大学）、高橋亜紀子氏（宮城教育大学）です。

（事務局 総田はるみ）

が行われました。現会員数382名のうち、総会出席者が1/10をこえ、定足数を満たしましたので、総会が成立したことをご報告します。諮られた事項は、以下の通りです。詳細については運営委員会報告をご参照ください。

(1) 次期会長および新事務局

才田いずみ氏（東北大学）の会長就任と新事務局を名嶋義直氏が務めてくださることを報告いたしました。

(2) 運営委員会委員の承認

2006年度運営委員会のメンバーが承認されました。

(3) 会計報告

平成17年度の会計報告および18年度の予算が承認されました。

(4) 次回研究会について

第27回大会を2006年9月23日（土・祝日）に東北大学で行うことを決めました。

（事務局 総田はるみ）

事務局移転のお知らせ

名嶋義直
（東北大学）

2006年4月1日より事務局が東北大学大学院文学研究科 日本語教育学研究室内に移転致しました。私、名嶋義直が事務局運営にあたります。任期は2008年3月31日までです。皆様にはご不自由やご迷惑をお掛け致しますが、ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

ホームページアドレス：

<http://www.jlem.info/>

メールアドレス：

jlem@ryu.titech.ac.jp

会誌（合本）販売のお知らせ

会誌のバックナンバーを合本で販売致します（部数限定）。合本第1巻 No.1～No.10、第2巻 No.11～No.20を考えています。HP上で注文を受け付ける予定です。これを機会にバックナンバーのご購入をご検討ください。

運営委員を募集いたします

現運営委員の任期は2007年3月までですが、ひきつづき、会を支えてくださる方を探しております。お気軽に、ぜひ、事務局までご一報くださいませ。

会費納入について

振込先：（郵便局）

記号 10140

番号 69076511

加入者：日本語教育方法研究会

* ご注意

この口座は電信払込しかご利用いただけません。

氏名を先に後入力ください。印字の都合上、ご所属のみしか届かず、お名前が判明できない場合があります。

会費は 3000円です。

2年間未納の場合は自動的に除名となります。

問い合わせ先：

jlem@ryu.titech.ac.jp

総会報告

第26回大会当日の午後、仁科会長の司会により総会が開かれ、以下の議題について承認および討議

会長就任のご挨拶

才田いずみ（東北大学）

JLEM がスタートした 1993 年という年は、日本にさまざまな新しい動きのあった年です。1993 年の 2 月下旬から 11 月上旬まで、私はオーストラリア国立大学にいて、久しぶりに日本語を教える楽しさを満喫していたのですが、日本を離れていた間に起きた変化の第 1 は、1955 年以來の自民党体制が崩れ、「非自民」連立の細川内閣が誕生したことでした。この内閣は、その後なんだか尻すぼみのようになりましたが、第 2 の変化の Jリーグは、非常に発展して、ワールドカップ 3 大会連続出場の原因力となっています。さらにもう 1 つ、1993 年生まれのもの、この JLEM も立派に成長し、次回が 27 回目になります。1994 年 3 月に東工大で開催された第 2 回研究会に参加し、短い口頭発表と活気のあるポスターセッションで、大変新鮮な研究会だと思いましたが、まさか自分が会長を務めることになろうとは、思いもしませんでした。ですから会長としての抱負は特にないのですが、日本語教育の現場に根ざした有意義な情報発信・情報交換の行われる研究会として、JLEM がさらに充実・発展するよう、微力を尽くしたいと思っています。どうぞよろしくご指導・ご支援のほどお願い申し上げます。

日本語教育方法研究会が日本語教育学会賞を受賞しました

2006 年 5 月 20 日に日本語教育学会より第 4 回日本語教育学会賞と副賞 30 万円をいただきました。理由は以下の通りです（2005 年度第 5 回理事会決定より引用）。副賞の使い道は現在検討中です。

日本語教育方法研究会は、1993 年に設立されて以来、日本語教育の現場に役立つ実践的かつ実証的な方法研究を推進し、日本語教育の質的向上を目指すことを目的として活動を行ってきた。同研究会は現在約 300 名の会員を有し、研究発表会（年 2 回）を中心に活動している。

研究発表会では、地域のボランティア教室から国内外の大学機関まで幅広い現場において、実践に関する数多くの発表と活発な意見交換が行われている。また、ポスター発表という形態を日本語教育の分野にいち早く取り入れたのも同研究会であり、ポスターを前にしたディスカッションは理論と実践、研究と教育現場を結ぶ貴重な議論の場を提供している。同研究会の活動を通して、研究と実践活動の拠り所を得た教師も数多い。また、2005 年 3 月には創立十周年記念論文集を出版している。このように、同研究会の 10 年以上にわたる地道な活動と成果が、日本語教育の発展と質の向上に寄与した功績は大きい。

当学会は、日本語教育方法研究会の以上の活動と将来にわたっての活躍を期待し、学会賞を授賞する。

（事務局）

第27回研究会 発表申込についてのご案内

日本語教育方法研究会 事務局 名嶋義直

会員の皆様

初夏の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年も研究発表の募集を行う時期となりましたので、ご案内を差し上げます。

今年度より発表申込をEメールで受け付けることと致しました。発表希望者は以下の要領でEメールによるお申込をお願い致します。Eメールでの応募が困難という場合は別途事務局までご相談ください(022-795-5992 直通)。よろしくお願ひします。

[発表申込み専用アドレス] : jlem-happyo@sal.tohoku.ac.jp

[応募要領]

- ・ 件名：発表申込 () ← () 内に申込者氏名を入れてください。
- ・ メール本文に記載する情報
 - 1) 発表題目
 - 2) 発表者氏名・ふりがな
 - 3) 所属 (おありの場合)
 - 4) 住所
 - 5) 電話番号・FAX
 - 6) Eメールアドレス
 - 7) 共同研究者の氏名・所属 (共同研究者がある場合)
 - 8) 発表要旨 (100～200字程度)
 - 9) 発表の際に使用希望の機器 (希望がおありの場合)

発表申込者には事務局より折り返し「発表申込受領」の返信メールをお送り致します。ただし、ネットワーク上の事故というものも考えられますので、数日経っても返信メールが届かない場合は、念のため事務局にご確認のご連絡をいただくと助かります。皆様のご協力を宜しくお願ひ致します。

なお、研究会・発表に関するスケジュールは以下の通りです。

- 7月21日 発表申し込み締め切り
- 8月18日 会誌原稿締め切り
- 9月12日頃 プログラムと会誌発送
- 9月23日 研究会開催

多数のお申込をお待ち申し上げます。